

第2回安曇野市環境審議会 会議概要

1	会議名	第2回安曇野市環境審議会
2	日時	令和3年7月7日(水)午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	本庁舎 大会議室
4	出席者	環境審議会 藤澤昇 会長、樋口嘉一 委員、横田耕太郎 委員、 中沢清一 委員、畑中健一郎 委員、河上賢 委員、岡江正 委員、 鶴見亮太 委員、原弥生 委員、平林昭敏 委員
5	市側出席者	市民生活部 山田部長 廃棄物対策課 廃棄物対策担当 豊田係長 環境課 山口課長、環境保全係 百瀬係長、空家対策室 内川室長 環境政策係 丸山係長、高山主事、古屋主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0名
8	会議概要作成年月日	令和3年7月9日

協議事項等

【進行表】

1. 開会
2. 委嘱書交付
3. 会長挨拶
4. 報告事項
(1) 環境基本計画 令和2年度 年次報告書について【資料1】
5. 意見交換
(1) 地球温暖化対策について
6. その他
7. 閉会

【議事】

報告事項(1) 環境基本計画 令和2年度 年次報告書について

<環境課から説明>

<審議会による取り組みの評価>

令和3年3月18日の令和2年度第4回環境審議会において保留となっていた重点取り組みの評価について、以下のとおり決定した。

- ・重点取り組みNo. 5 目標③：A
- ・重点取り組みNo. 6 目標①：D

<質疑・意見>

- ・特になし。

意見交換(1) 地球温暖化対策について

<意見交換>

(委員) 世界、国、県としても、ゼロカーボンに向けて動いていく。その中で安曇野市がどのような形で2050年のゼロカーボンに向けて動いていくかを考えなければいけない。すでに温暖化排出係数がゼロという電気も市場に出ており、買うことができる。電気の購入先を変える

だけで、温暖化対策になる。こうしたことを市として広げていってほしい。須坂市では小水力発電を設置している。安曇野市にもまだまだ利用されていない再生可能エネルギーがあると思う。

(委員) 植林がここ数年で増えてきている。安曇野市では木質ペレットも多くなってきている。市民の意識も変わってきているのではないか。

(委員) 「長野県ゼロカーボン戦略【概要版】」の「気候危機突破方針 2050ゼロカーボン達成シナリオ」をみると、2050年までに自動車を全てEV・FCVに変えること等が示されている。これらの移行が本当に可能なのか疑問に感じる。

(委員) 松枯れや熱海の土砂災害に関しても、環境を守ることが、自分の生命・財産を守ることに直結している時代になってきている。しかし、環境に対して他人事であり、危機意識が足りていない人が多い。このことをアピールしていったらよいのではないか。いろいろな災害が増えていく中で、環境について知っていく必要がある。

(委員) 「〔信州版〕省エネガイドブック（令和3年2月発行 長野県地球温暖化防止活動推進員発行、長野県地球温暖化防止活動推進センター協力）」は読んでみよう、やってみようと思えるパンフレットである。市としても、わかりやすい宣伝、議論を進めていかなければいけないと思う。

(委員) 一市町村として、ゼロカーボンに向けて何ができるのかを考えていかなければいけない。今まで行ってきたことだけではゼロカーボンは達成できない。危機感を持って取り組まなければならないことを啓発していくことが、市町村としての大きな役割だと思う。温暖化により、住んでいる地域にどのような影響が実際にあるのかを伝えていくことに重点を置く必要がある。

(委員) 太陽光発電の余剰電力買取価格が安くなってきている。また、蓄電池と一緒に設置したい人が多いが、蓄電池の設置には多くの費用がかかる。災害の際は、太陽光発電だけでは不十分であり、蓄電池もないと災害に強い家はつくりれない。蓄電池は重要な役割を果たすため、蓄電池の設置に関する補助金も検討してほしい。

(委員) 自分で使うエネルギーをいかにして減らして、電気をつくりだし、今までの暮らしを維持していくか。電気の自給自足を進めていくことが、ゼロカーボンに近づいていく。そういう部分を市民に訴えていったほうがよい。

(委員) 世界や日本・長野県・松本地域・安曇野市の地球温暖化の状況を理解する。今までの安曇野市の地球温暖化対策を確認し評価する必要がある。個々として、以下のことが必要である。安曇野市の地球温暖化対策の目標とそれに向けたロードマップを策定し宣言する。安曇野市の地球温暖化対策についてSDGsとの関係を確認し反映する。長野県ゼロカーボン戦略について安曇野市の対応を明らかにする。長野県ゼロカーボン戦略からの安曇野市の公的業務と施設の対応を明らかにする。長野県ゼロカーボン戦略について、市民と事業者に伝えるとともにその対応を明らかにする。さらに施策として展開し進捗を評価する。エネルギー自立地域づくりについて確認し、安曇野市のエネルギー計画について県と松本圏域と連携し策定する。地球温暖化に伴う気候変動に際し、気象災害の防災や産業・農作物への対応及び市民の健康や熱中症対策などの適応策を推進する。地球温暖化を抑制していくための省エネなどの緩和策を推進する。安曇野市のまちづくりについて地球温暖化対策を含め検討し展開する。必要に応じて地球温暖化に伴う政策・施策の条例を検討し制定する。また、「〔信州版〕省エネガイドブック」等も市の地球温暖化対策に活用願いたい。

<質疑・意見>

(委員) 安曇野市は小水力発電に関与があるのか。

(環境課) 市内の数カ所に小水力発電がある。そのうちのひとつは、新聞でも取り上げられていた、三郷小倉の小水力発電である。耕地林務課で小水力発電の支援をしていく体制はとって

いる。環境基本計画でも小水力発電の記載はあるが、現時点で小水力発電は少ないため、今後進めていく内容である。

(委員) 日本では小型の風力発電システムがつくられているが、安曇野市は風力発電に関与があるのか。

(環境課) 明科の自然体験交流センター「せせらぎ」に小さい風力発電がある。事業展開はまだ進んでいない。

(委員) 市で補助金を出しているのではなく、民間独自で行っているものか。

(環境課) 現時点で、風力発電に関する市の補助金制度はない。

(委員) 須坂市の小水力発電は民間が独自に行っているものか。

(委員) ほとんどが地元の建設会社や電気工事会社が行っている。再生可能エネルギーの利点のひとつは、地元で経済を循環させることができることである。

(委員) 「[信州版] 省エネガイドブック」はとてもわかりやすい。市内の小学校の授業で、省エネガイドブックの内容を取り上げ、子どもに知ってもらう機会を広げてほしい。

(委員) 広報あづみので、環境問題のテーマを絞って掲載することも効果的である。

(環境課) 令和3年2月17日に発行した広報あづみので、省エネガイドブックの一部を取り上げた内容を掲載した。市としても地球温暖化は重要な課題だと捉えているので、今後もいろいろな方法で周知を考えていく中で、省エネガイドブックを活用していく。

その他

<環境課から説明>

<質疑・意見>

(委員) 委員から地球温暖化対策について意見を出したが、この意見は今後どのように活用していく予定か。

(環境課) 地球温暖化対策実行計画に活用していく。環境基本計画の中間見直しと合わせて組み込んでいく。

(午後3時30分 議事終了 閉会)

【今後の予定】

・令和4年1月19日 第3回環境審議会